

あるかぽーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第 20 回 議事概要

日時	2025年7月10日（木） 13:30～16:00
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者（委員）	HBP・KAM 共同事業体： 吉田、木村隼、木村大、清原 専門家：熊谷、榎本、長町 事務局：島崎副市長 総合政策部 内田、 共創イノベーション課 田坂、平山、松永、村上

0. 開会挨拶

島崎副市長より官民一体となったより一層の協力の呼び掛け、及び北島元副市長の6月30日での退任とデザイン会議の事務局体制の一部変更（事務局長を共創イノベーション課長へ移管）することが報告された。

1. 第4回推進会議の報告

下関市共創イノベーション課より資料に基づき説明

2. みなと協議準備会の立ち上げについて

デザイン会議木村隼委員より資料に基づき説明の上、議論。

- あるかぽーと地区事業者を中心とした「みなと協議会（仮称）準備会」が発足したことを報告
- 今後は月1回のペースで、エリアのビジョンやマネジメント体制について具体的な議論を進めていく方針
- 協議会の活動には、本デザイン会議も積極的に関与し、連携を密にしていくべきとの意見が出た。

3. モバイルファニチャーの設置について

市共創イノベーション課、デザイン会議熊谷委員より資料に基づき説明の上、議論。

- 公募入札の結果、落札された。
- 7月から製作を開始し、9月中旬に完了、10月1日からの社会実験として供用開始を目指す。
- 契約業務には、製作だけでなく、設置後の運用（修繕、補強、注意喚起、災害時の避難訓練など）も含まれる。

4. 社会実験「唐戸朝市の報告」

デザイン会議吉田委員より資料に基づき説明の上、議論。

- 行列ができる盛況ぶりだった。特に「魚をその場で捌いて買って帰る」という食体験が高い価値を生み出し、市民の強いニーズがあることが確認できた。
- 今後の継続に向けた「自走」が大きな課題として議論された。
- 事業者自身が企画・運営・マーケティングまで行うのは困難であり、全体のブランディングやディレクションを担う専門的なマネジメント組織の必要性が提起された。
- マネジメント組織は、各事業者の「稼ぎ方」を共に考え、全体のブランド価値を高める役割を担うべきとの意見が共有された。

5. 渋滞対策

市都市計画課より資料に基づき説明の上、議論。

- 今年度の目標は、現状の渋滞レベルをこれ以上悪化させない「維持」とすることを報告。
- 対策の一環として、唐戸市場横の臨時駐車場の進入路を拡幅する改良工事を予定している。
- 専門家より公共交通の利用促進や広域的な駐車マネジメント、予約システムといった道路交通対策以外の施策についても検討を始めたほうがよいという趣旨の意見が出された。

6. その他

(1) 海響館の改修について

市観光施設課より資料に基づき説明の上、議論。

- 8月1日からアシカの施設を中心としたリニューアルオープンをすることを報告。

海響館の

(2) 歴史的建物のライトアップについて

市都市計画課より資料に基づき説明の上、議論。

- 亀山八幡宮など歴史的建造物3施設を対象に、11月頃の点灯を目指し工事を進めていることを報告。
- 委員より赤間神宮のライトアップの色がビビッドで周辺景観との調和の点が気になったという趣旨の意見が出された。
- これに対し市側からは、照明の専門家にも監修に入ってもらうなどして、色彩や演出を慎重に検討していきたい、との説明があった。